



キャンプは人を育てる 青少年に伝えたい人格的価値



大阪産業大学
人間環境学部
准教授

くにもと あきのり
國本 明徳

六甲山麓は、大阪YMCAが1920年に日本で最初の長期少年キャンプ(14泊15日)を実施し、後の組織キャンプの発展に寄与された由緒ある地です。そのような地である六甲山YMCAを、先日弊学のキャンプ実習で訪れている時、筆者の恩師である酒井哲雄先生(元大阪YMCA副総主事・公益社団法人日本キャンプ協会名誉会長)が「キャンプは人を育てる」という主旨のお話をされたことを思い起こしました。

このキャンプ活動に期待される教育的効果としては、①環境保全を含めた自然界への理解が深まる、②感受性が豊かになる、③集団生活やグループ行動を通して自主性、協調性、責任感、忍耐力、社会性が育まれる、④プログラム活動を通して知恵を得、問題解決能力が高められるだけでなく、知的好奇心や創造力までも育まれる、⑤限られた装備やさまざまな条件のなかで活動することにより、創意工夫する力や幅広い適応力が養われる、⑥自分で活動することにより、何より自立心が高められる、といった6つに集約されると考えられます。また、ある調査研究によると、自然体験活動を多く経験した子どもは、そうでない子どもに比べて、高い問題解決能力を持ち、人間性もより豊かであることなどから、「生きる力」があると結論づけています。加えて、他の研究報告においてもキャンプ活動による教育的効果が認められているところです。即ち、キャンプは人を育て、このキャンプ活動を通して得られる教育的効果こそ、教育現場や社会教育団体に従事している者にとって、「青少年に伝え続けていかなければならない人格的価値」ではないでしょうか。

残念なことに、近年における急激な社会環境の変化は、様々な利便性をもたらすと同時に青少年に暗い影をも落としています。特に、ITの発展により、疑似体験や間接体験が助長された結果、実社会に適応できない、相手のことを考えてあげられない、モラルの低下、SNSによって友人関係のトラブルなどが引き起こされるなど、様々な社会問題として注視されています。キャンプ活動は、直接体験学習の場でもあることから、このような社会問題を解決する有効な手

段としても非常に有意義であると考えられます。また、キャンプ活動の本質的な目的は人間形成にあるといっても過言ではないため、青少年たちは活動を通して、「伝え続けていかなければならない人格的価値」を身につけてもらうことによって、希望ある明るい未来へと導かれることでしょう。

このように、キャンプは、いつの時代にも普遍的な、教育的かつ人格的価値を与え続けてきているだけでなく、その時々^{その時々}の社会的ニーズに応えたり、社会的課題を解決したりする手段としての役割を担っているといえます。YMCAが、「精神(Sprit)」、「知性(Mind)」、「身体(Body)」の3つが調和された全人的成長が青少年にとって必要不可欠であることを謳い、そのための機会としてキャンプ活動や野外活動の支援に力を注いでこられたことは、まさに「キャンプで人を育てる」ことを大切にしている証であると思います。

大阪YMCAがキャンプを始めてから、間もなく100年を迎えます。この間に培われてきた経験やノウハウを、これからの100年に向かうキャンプ活動や野外活動に活かし、『青少年に伝えたい人格的価値』をより多くの青少年に伝え、彼らがまた次のつなぎ手となることを願ってやみません。

INDEX

・キャンプは人を育てる	1P
・Yボランティア活動紹介～ウエルネス事業～ ・YMCAフレッシュ	2P
・大阪YMCAチャリティーラン2015報告	3P
・食育コラム ・大阪YMCA大会2015ご案内 ・YMCA/YWCA合同祈禱週集會案内 ・早天祈禱會 ・ユースリーダー安全支援金寄付者一覧 ・会員 ・賛助会	4P

大阪YMCAの使命

- 大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。
- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代のひとびとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界のひとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

Yボランティア活動紹介

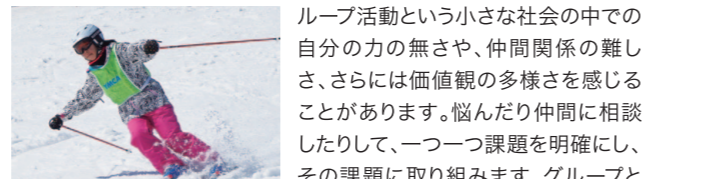
～ウエルネス事業～

ウエルネス事業とYボランティア活動

こにし ゆうき
土佐堀・枚方YMCA 所長 小西 雄希

ボランティアとしてYMCAの門を叩くユース(大学生・短大生)の志望理由は、「子どもが好きだから」「学校や幼稚園の先生になりたいから」「何か自分にできることがないかと思って」「スポーツが好きだから」など、十人十色です。ボランティアは、誰にも強制されず自分の意志で自分を自由に表現する場です。ウエルネス事業では、野外活動・体育活動など子どもの心身の健全な成長を願って活動を展開し、その活動にユースボランティアリーダーが関わっています。

しかし、実際に子どもと向き合うと、ユースボランティアリーダーは悩みます。「子どもの要望に一つ一つ応えたいのに応えられない」「子どもの笑顔が見たいのに、今日は悲しそうに帰ってしまった」など、グ



ループ活動という小さな社会の中での自分の力の無さや、仲間関係の難しさ、さらには価値観の多様さを感じることがあります。悩んだり仲間に相談したりして、一つ一つ課題を明確にし、その課題に取り組みます。グループという小さな社会ではありますが、その過程で社会全体の課題に向き合い、「なぜ子どもの要望に応えられない自分があるのか」「子どもの成長って何だろう」「なぜこの子だけが悲しい目にあわないといけないんだろう」「この困っている子をどうにかしたい」などの当事者意識が芽生え、そこで出会った仲間や子どもとその課題に取り組み始めます。その課題に向き合い、仲間と共に解決していくことは、YMCAの掲げる「社会の課題に向き合い、社会を変革していくチェンジメーカーの育成」に他なりません。そのような体験を通して、子どもの育みと共にユースボランティアリーダーが育まれ、その経験が広く社会で活かされるものとなり、また個人の人生に「ボランティア」という豊かな価値が根付く一歩となればと願っています。

高槻YMCA ユースボランティアリーダー

たけむら まさと
竹村 理翔 (ムーチョリーダー)



私がリーダー活動を始めたのは、昨年の7月です。初めは不安だらけだった活動も、今ではとても楽しく、やりがいのあるものになり、毎回の活動を待ち遠しく感じています。

現在は冒険クラブや野遊びクラブの野外活動、さらにはサッカーのリーダーとして活動しています。活動を始めた頃、私はメンバーに対してどのように関わり、声をかければいいのか悩んだ時期がありました。しかし、その悩みを真正面から受け止め、アドバイスをくださる先輩がたくさんいました。「初めはメンバーと一緒に楽しむことが大切!」「リーダーが答えを出すのではなく、子どもが考える機会を用意することが大切!」と、活動中や評価会などでアドバイスをもらい、少しだけ自信が持てるようになりました。その後も度々相談にのっていただき、たくさんの尊敬できる先輩に囲まれていることを実感しています。

そんな私も、今では後輩たちが自信を持って活動できるようにアドバイスする番だと思っています。以前の私のように不安を感じている後輩がいるかもしれない。そんな後輩のそばに寄り添い、仲間たちと歩みを強めていきたいと思っています。

大阪YMCAの133年もの長い歴史には、たくさんの情熱があったと思います。この情熱が100年先も繋がっていくよう、今自分にできる



ことは、ユースボランティアリーダーの仲間たちと未来を力強く生きる子ども達の成長を願い、活動に励むことだと思っています。これから多くのユースボランティアリーダーや子どもに関わり、感謝の気持ちを忘れずにリーダー活動を精一杯頑張っていきたいと思っています。

YMCA フレッシュ

やまもと あい
北YMCA スタッフ 山本 愛



私の仕事は、たくさんの子とも関わることです。平日の午前中は、近隣の幼稚園の正課に年少から年長の子ともと体育活動をし、午後からも幼稚園で課外クラスを行っています。課外クラスでは、運動が得意不得意に関係なく、さまざまな子どもが集まっています。でも、みんな「今日YMCAの日だね!」と声をかけてきて、おにごっこや器具遊びなど楽しみながら身体を動かしています。また、月に2回、小学生を対象とした野外活動で、山登りや川遊びなど自然の中で遊びます。10月は緑地公園で、どんぐりクッキーを食べました。「どんぐりって食べれるの?」そんな新しい発見や経験を、メンバーと一緒にしています。

子どもたちを見ていると、苦手なことやできないことに直面した時、「もうやらない」とあきらめてしまうことがあります。私自身も昔、なかなか逆上がりができず、悔しいような惨めなような思いをしました。でも幼稚園の鉄棒で毎日繰り返してやっていたら、ある日突然ふっとできるようになりました。そのときに、先生や母が自分以上に喜んでくれたことを鮮明に覚えています。私は今、この「できた!」の瞬間に出会い、一緒に喜び合える仕事をしています。それは逆上がりなどの「技」



ができるようになったという成長だけでなく、苦手なことでもやってみたら自分でもできるようになるのだという自信、「心」の成長でもあると思います。私が昔そうしてもらったように、わずかであってもその成長・変化に気づき一緒に喜び合えるように、子ども「ひとり」を見つめていきたいと思っています。



第21回 大阪YMCA インターナショナル・チャリティーラン2015

10月12日(月・祝)、花博記念公園鶴見緑地特設コースにて第21回大阪YMCAインターナショナル・チャリティーラン2015が開催されました。当日は爽やかな秋晴れの下、大阪YMCAに連なる様々なグループから多くの人々が集い、笑顔あふれる大会となりました。(たすきリレー20チーム、グループラン39チーム、10kmラン12名、ファミリーキッズラン17ファミリー、ボランティア約200名、その他来場者約100名)

皆様のご協力により、3,445,206円(10月12日現在)の支援金を集めることができました。ご支援いただきました企業、各種団体、ワイズメンズクラブをはじめ、関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。チャリティーランに寄せられた支援金を、大阪YMCAの障がい児・者支援プログラムに大切に用いさせていただきます。



5人1組で10kmを走るたすきリレー(順位制)。善意のたすきが繋がれていきます。

1人で10kmランを走り切りました!



たくさんの子どもたちが、家族や先生と一緒にファミリー・キッズランに参加してくれました。



グループランに参加された方からは、結構きつくて疲れたけれども、とても楽しかったという声が多く聞かれ、走り切った皆さんはとても素敵な笑顔をされていました。また、趣向を凝らしたコスチュームも多く見られ、大会が盛り上がりました。



ザ・リッツ・カールトン大阪の皆様

大阪YMCAで日本語を学んでいる留学生チーム



三菱商事株式会社の皆様



泉北スピリットの皆様

たすきリレー1位「やったー!」Tosabon X Hihataken Team



たすきリレーの1位は同着のため2チームとなりました!



たかすくいのチーム TAKATSUKI

たすきリレー3位 日本タカコンсалタキチーム 日本タカコンсалタキ株式会社の皆様



コスチューム賞 TAKATSUKIランジャー



チャリティーランからの支援金で行っているプログラムの参加者も走りました。

HHキャンプチーム

走り切った参加者が、「しんどかったけど生きてるって感じ!」といきいきと話してくれました。

2015年度 大阪YMCA実施 障がい児・者支援プログラム (一部抜粋)

- ◆ 障がい児・者ボウリング大会
- ◆ エンジェルスイミング/エンジェルキャンプ
- ◆ どんぐりマリンキャンプ/どんぐりスキーキャンプ
- ◆ 馬と遊ぼう
- ◆ 聴覚障がい青少年国際キャンプ(HHキャンプ)

好きな物を楽しく食べる

たなか あさこ
YMCAたかつきあま保育園 スタッフ 田中 麻子

最近、日本ではお米や果物を食べなくなったと言われてますが、たかつきあま保育園の子どもたちはお米も果物も大好きです。

毎日、給食の時間にほとんどの子どもたちが「ごはんとおください。」と言って、好きな物やもっと食べたい物をたくさんおかわりします。中には、ごはんだけをおかわりする子もいます。大人は味がしている物がないとごはんがすすまないのですが、子どもたちはごはんの甘みを楽しんで食べているようです。

また、果物はりんごやバナナなど常に提供できるものを含め、メロン・梨・いちご・桃など旬の時期にしか味わえない果物をおやつやデザートとして提供しています。バナナは大人気ですが、他の果物も大好きで、果物のおかわりが足りなくなるほどです。

今夏、近所の農家の方から、畑でとれた大きなスイカ(産地直送です!)を頂戴しました。みんなでおやつ時間にいただきましたが、甘くておいしいスイカで、みんな大はしゃぎで、おかわりのコールが止まらずたくさん食べました。感謝の気持ちを、みんなでお礼のお手紙に書いてお渡ししました。保育園の周りに畑や田んぼがたくさんある、たかつきあま保育園ならではの出来事でした。このような素敵な出来事も含めて、これからも旬の果物などを取り入れながら、いろいろな果物をおいしく食べてもらおうと思います。

たかつきあま保育園はもうすぐ開園1周年を迎えます。好き嫌いが多い子どももいますが、保育園の給食を通していろいろな食材を知り、食べることがもっと好きになるような給食をつくっていききたいと思います。



大阪YMCA大会2015のご案内(第3報)

テーマ“世界とつながる!世界に広がる!”

日 時… 2015年11月27日(金)・28日(土)
場 所… 大阪YMCA会館(土佐堀)

■シンポジウム・フォーラム

A [27日] 14:00~16:30
発達支援事業フォーラム
「日本の特別支援事業とYMCAの可能性」

B [28日] 10:00~12:30
国際シンポジウム
「地域支援総合事業 地域包括ケアシステムを考える」

■ユースアクション

[28日] 10:30~12:30
世界とつながるユースフォーラム

■Yボランティア(会員)の集い

[28日] 13:30~15:30
奨学金授与式・会員表彰式・事業報告など

大阪YMCA/関西韓国YMCA/大阪YWCA 合同祈禱週集会

テーマ: Let there be Hope —希望あれ—

世界中のYMCA・YWCAに連なる人々が、毎年1つのテーマのもとに、聖書からメッセージを聴き、祈りを共にする時をもつ、世界YMCA/YWCA合同祈禱週集会。どなたでもご参加いただける楽しい集いです。

前半は、テーマに沿った祈りのひととき、また、後半の交流会では、各Yのステキな出し物や活動報告があります。

皆様お誘い合わせて、ぜひご参加ください。

プログラム

- 第1部……………
・礼拝
・メッセージ
おいた しん
老田 信 牧師
(日本基督教団 大阪聖和教会)
第2部……………
・お食事と交流のひととき

【日 時】
2015年11月12日(木)
18:30~20:30

【会 場】
関西韓国YMCA 1階ホール

【参加費】
無料(礼拝の中で献金を捧げます。)

※人数把握のため、ご参加の際は下記問合せまでご連絡ください。

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務
【TEL】06(6441)0894 【FAX】06(6445)0297
【E-mail】info@osakaymca.org

第271回 大阪YMCA早天祈禱会

日 時… 2015年11月20日(金)7:30~8:30
証 し… 秋田 正人さん(大阪YMCA中期計画推進本部 部長)
場 所… 大阪YMCA会館 10階 チャペル

ユースリーダー安全支援金寄付者 ご協力に感謝申し上げます。

第3回報告(2015年9月度) 敬称略

稲付 洸太 井上 由梨 猪口 武志 内木場 博志 大岡 亜希子 大島 佑香 岡崎 志穂 岡本 真美 掛谷 太郎 香留 伸太郎	川上 裕己 川岸 莉子 北岡 昂 工藤 健気 黒川 みつき 黒田 由美 小角 彩華 繁延 千春 下村 健太 杉山 佳之	田代 恵子 田中 裕士 寺岡 進 土佐堀YMCA リーダーOB'06 刀襦 愛子 永井 綾香 長野 碧 中山 京香 西川 航平	西野 建吉 二宮 裕理 野々垣 柚葉 瀧谷 風香 速見 莉奈 平野 翔子 福田 成美 古塚 千絢 堀 有輝子 樹井 智之	榎田 ひかり 松村 京香 森永 真唯 山崎 操 山中 翔太 山本 愛 吉村 りさ 和田 直人
---	--	--	---	---

皆様のご協力により、総額840,670円・461件(9月30日付)の募金を集めることができました。感謝をもってご報告させていただきます。

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2015年9月度報告・敬称略

【新規会員】 金原 愛実 坂田 楓花 谷口 友那 榎田 ひかり 村上 真央 山内 沢真 若宮 裕理 Chan Tsz Lok Alex	【継続会員】 岩井 利早 上村 紗央里 坂本 安世 中野 義彦 西田 拳一郎 林 博彦 森田 果那 山下 菜奈	山田 潔佳 山田 弥栄子 山本 雅司 雪本 洋美 横山 まどか	【継続賛助会員】 大志野産業株式会社 関包スチール株式会社 近鉄グループホールディングス株式会社 阪急電鉄株式会社 株式会社ピー・アイ・シー 一般社団法人 The Honolulu Academy of Medicine
---	---	---	--

お詫び

先月(10月号)の3面にご執筆いただいた櫻井香乃さんのお名前の記載に誤りがありました。ここに訂正するとともに、謹んでお詫び申し上げます。

誤)櫻井 香之 → 正)櫻井 香乃